

まとめ

本研究では、自立を、障害の軽重に関係なく「最小の支援で最大の能力を発揮すること」、社会参加を、「どれだけ主体的に活動できるか」として授業改善を進めた。

今回のプロジェクトの研究成果として、「学習環境の改善」「個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直し及び活用方法の具体化」「ティームティーチングのあり方」「関わりの工夫」「教材教具の工夫」「授業参観・授業評価シートの作成及び活用」「教師の授業に対する意識の変容」等があげられる。

構造化については、意義や目的を講師の上岡一世先生に御指導いただき、児童生徒が自らの判断で自主的に行動する主体的行動等の改善を行った。その結果、児童生徒の行動に働き掛けるのではなく、思いが心に響くことで行動に結びつくといった支援方法を学び、子どもたちはやらされるのではなく、豊かで伸びやかな自己表現を身に付けた。

また、次ページに示すように、全ての児童生徒が個々の実態に応じた方法で自立・社会参加・就労するためには、各部それぞれの発達段階において「生きる力」をしっかりと育てる必要があることから、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を見直し、日々の学習活動の中でより活用できるものとした。その結果、実態把握、目標設定、支援方法や内容、課題等が一連のPDCAサイクルの中に位置付けられ、フィードバックさせながら活動を繰り返すことで学習の成果を定着させることができるようになった。しかし、場所や場面を変えると活動や思考の幅が狭くなるなど、応用一般化されていないことも多く残っており、教材教具の工夫とともに今後とも機能させていくための改善をしていく必要がある。

今回のプロジェクトでは、すべての教師が年間3回の研究授業に取り組んだことにより、教師個々が頭の中で考えてきた支援に関する考え方や方法について学校全体で検討する機会となり、知的障害のある児童生徒への効果的な関わり方を全員で共有することができた。部内はもとより部を超えて話し合いをする機会が増えることで、新たな児童生徒の情報の共有が進み、人との関わりを学習させるための工夫や児童生徒の主体的行動を待つ教師の姿勢等、伸びることを信じて支援することにゆとりが持てるようになった。

今後は、授業改善を一人一人の教師が日々の教育活動において継続して実践していくことが重要である。さらに学習グループや学年、部で情報交換や情報の共有を図り、発達過程にある児童生徒の様子を的確に捉え常に効果的な支援を行わなければならない。また今回は学校単位での取り組みであったが、特別支援学校間で支援方法や教材教具等の情報交換を行っていくことでさらに授業改善が充実すると思われる。

「子どもの生きる力を伸ばす授業改善」の真の成果が問われるのは、卒業後すべての子どもたちが持っている力をすべて出し切り生き生きと自立し社会参加したときである。これからも、教育の専門家として「授業改善」と「授業実践」への高い志を持ち、研さんを積んでいきたい。

子どもの生きる力を伸ばす授業改善

～見る、聴く、感じるを通して～

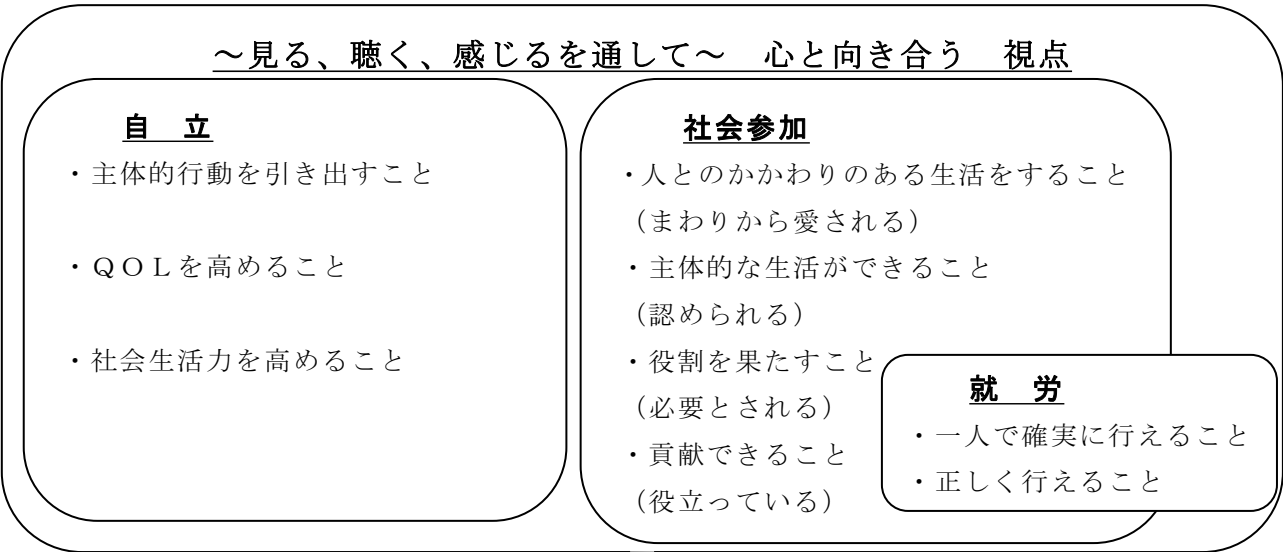
生きる力

小：「主体的に行動できる力」 中：「生活に生かせる力」
 高：「自ら考え判断し行動する力」 訪：「コミュニケーション力」

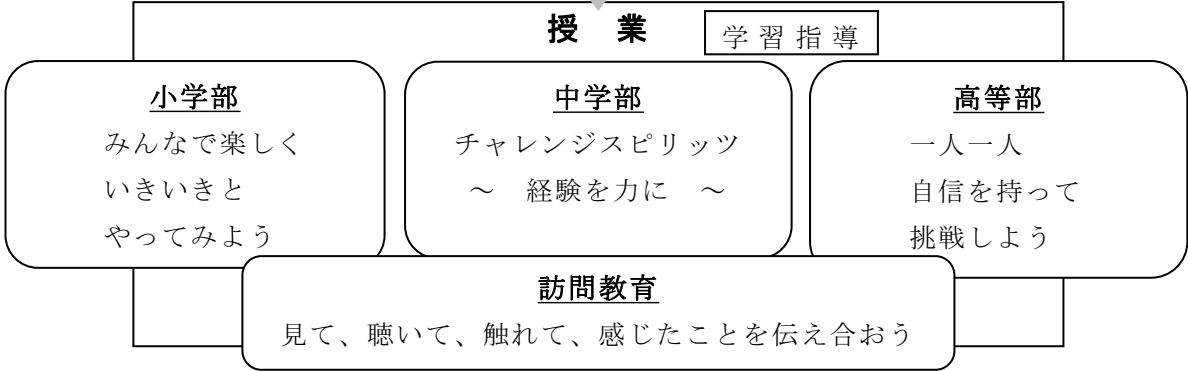
小中高一貫教育 「自ら考え行動する力、多くの人とのふれあいを通じた協同する力」を発達段階に応じて伸ばす。

○ **Plan** 計画

児童生徒の実態・教育的ニーズの把握、段階的・系統的学習内容や方法の検討
 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・活用



○ **Do** 実践



○ **Check** 評価

授業評価シート

課題設定の視点、自立的支援の視点、環境整備の視点、応用汎化できるという視点、児童生徒自ら活動する視点、児童生徒の活動量という視点、個と集団が生きているという視点

○ **Action** 改善

授 業 改 善

平成22年度 研 究 紀 要 第 1 号

発行日 平成23年 3 月

発行者 愛媛県立宇和特別支援学校

聴覚障害部門

〒797-0015 愛媛県西予市宇和町卯之町3-85
電 話 (0894) 62-0061
FAX (0894) 62-0213
<http://uwa-sd.esnet.ed.jp/>

知的障害部門

〒797-0029 愛媛県西予市宇和町永長1287-1
電 話 (0894) 62-5135
FAX (0894) 62-6938
<http://uwa-sh.esnet.ed.jp/>